

愛は国境を越えて

共生園

1938年、尹致浩との
結婚式での田内千鶴子

061-242-7501,7502, <http://www.mksw.org>

共生園の紹介

1928年、基督教の伝道師・尹致浩が橋の下で寒さに震えている孤児7名を見つけ、生活を共にした。これが共生園のはじまり。子どもたちの数は増え、力が必要になった時、音楽教師の田内千鶴子が尹致浩に合流した。

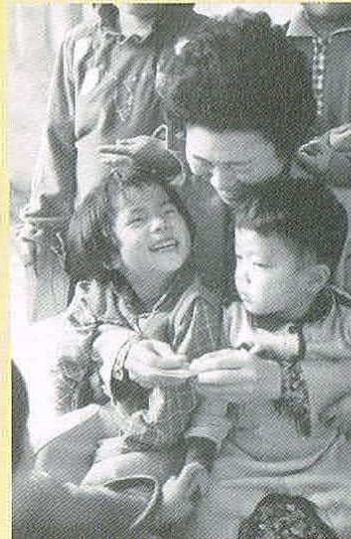
その後日本の敗戦で、彼は親日派と攻撃された。千鶴子を助けたのは共生園の孤児たちだった。「日本人でも私たちのお母さんです」と体を張って命を守ってくれた。民族は違っても、真心は通じる。愛されれば、愛する人になる。助けられたら助ける。これが人間です。これが共生園の歴史です。

朝鮮戦争のさなか、行方不明となった夫の帰りを待ちながら苦難の運営にあたり、3千人の孤児を育てた彼女の崇高な献身の生涯に、韓国政府は文化勲章を贈ってその功績を讃え、日本政府もまた藍授褒章、勲五等宝冠章をもって多年の労をねぎらいました。

私はいま、大阪で在日コリアン高齢者と生活をともにしています。韓国で50年を暮らし、ハンゲルを話していた母の最後のことばは日本語で「梅ぼしが食べたい」でした。韓国語と日本語、キムチと梅ぼし、アリランと演歌。異国で暮らす在日コリアン高齢者が安心して暮らせる故郷の家づくりは、尹致浩と田内千鶴子、田内千鶴子と孤児たち、共生園と木浦市民、そして韓国と日本が共に生きている延長線上にあります。共生園は永遠に弱者の側に立つことを目的としています。

ユン・ギ

ソーシャルワーカー。尹 基(田内 基)



社会福祉法人
崇實共生福祉財団

共生福祉財団は、2008年、80周年を記念して韓国で最も古い学校である崇實大学校と提携し、崇實共生福祉財団として新たな出発をしました

121-784 大韓民国ソウル市麻浦区麻浦大路53 マボトラパレスA棟2307号

TEL_02-704-4011 FAX_02-704-4015

E-mail_kongsaeng@hanmail.net

<http://www.kongsaeng.or.kr>

1 事務室 _ 1949. 5. 10

尹致浩は素手で土をならし、子どもたちと祈りながら講堂を建てる時、海岸に流れついた難破船を見つけ、そこから役立つ木材を取り、十年かかって完成した。講堂は現在は事務室として使用されており、中央の石造アーチ門の上にはハンガルの「共生圏」の文字が刻まれている。

2 児童宿舎大阪愛の家 _ 1975. 10. 31

共生圏の園長ユン・ギ氏と結婚した旧姓福田文枝を励ますために大阪市民の募金で建てられたのが児童宿舎大阪愛の家である。韓国初のマンション型児童宿舎となった。

5 JALハウス _ 1971. 6. 7

1969年、NHKに出演したユン・ギの話に感動した日本航空松尾静庵会長は、家族的な雰囲気施設の施設で子供たちを育てたいユンの話の聞いて愛の家を贈ることになった。それをJALハウスと名づけあたたかい交流が続いている。今は卒園生たちのためのゲストハウスとなっている。

8 愛の泉(井戸) _ 1937. 4. 3

1887年に開港した木浦港を賑わす火絨船(火力を利用した動力船)の船員たちがよく利用した井戸は「火絨泉」として親しまれていた。共生圏に湧かない。園内にあった「火絨泉」も大盤洞住民に開放され、仲良く暮らしてきた。この井戸を作家韓雲史先生はこう語った。「一文もなかった尹致浩とその妻田内千鶴子は、どんなにして無数の家なき子どもたちを育てたのだろうか。ここに、ひからびることなく、こんこんと湧き出る愛の泉を飲ませたに違いない。名づけて愛の泉とする。」

9 大一食堂 _ 1975. 10. 31

当時、320人の子供たちが仮設の狭い食堂で三交代で食事をしているのを見かねた大阪自強館の吉村毅生理事長が大浦一夫社長に頼んで作られたものが大一食堂である。今は図書館として使われている。

10 社宅 _ 1961. 11. 30

尹致浩は教会、宿舎、事務所の三つを計画した。講堂が完成した後に事務所と宿舎に取り組みが朝鮮戦争により中断された。それを田内千鶴子が日本木浦会²の支援の下で完成し、事務所と田内千鶴子が晩年を過ごした住居であった。今は社宅として使われている。

2. 日本木浦会: 日本の統治時代に木浦に居住していた日本人たちが組織した親睦団体で、1961年4月、千鶴子を日本に招待した時から共生圏と日本の交流が始まった。

11 学習室 _ 1961. 11. 30

韓国戦争孤児や難民を助けるために国連韓国再建団(UNKRA)³は孤児の宿舎として簡易住居を10棟ほど建ててくれた。今も当時のシンボルとして残っている。

3. 国際連合韓国再建団(UNKRA) 1950年12月、第5回国連総会決議に基づき、韓国の復興と再建を助けるために設立された機関。食糧援助をはじめ産業・交通・通信・医療・教育施設の復旧活動を行った。

12 田内千鶴子記念館 _ 1961. 11. 30

石造りのこの建物は尹致浩の手で骨組みまでできたが朝鮮戦争で中断され、田内千鶴子が61年に完成した。当時は子どもたちの宿舎だったが、2012年、田内千鶴子の生誕100周年を迎え、記念館に。木浦市は石造りのこの建物を文化財とする意向である。

6 母の塔 _ 1970. 5. 8

京郷新聞社¹主催の1968年度「国民が贈る希望の賞」大賞に田内千鶴子を選ばれたが受賞を前に亡くなったため、共生圏内に同新聞社が顕彰碑を建てくださった。

1. 京郷新聞社: 韓国の日刊紙

7 総理が贈った梅の木 _ 2000. 4. 18

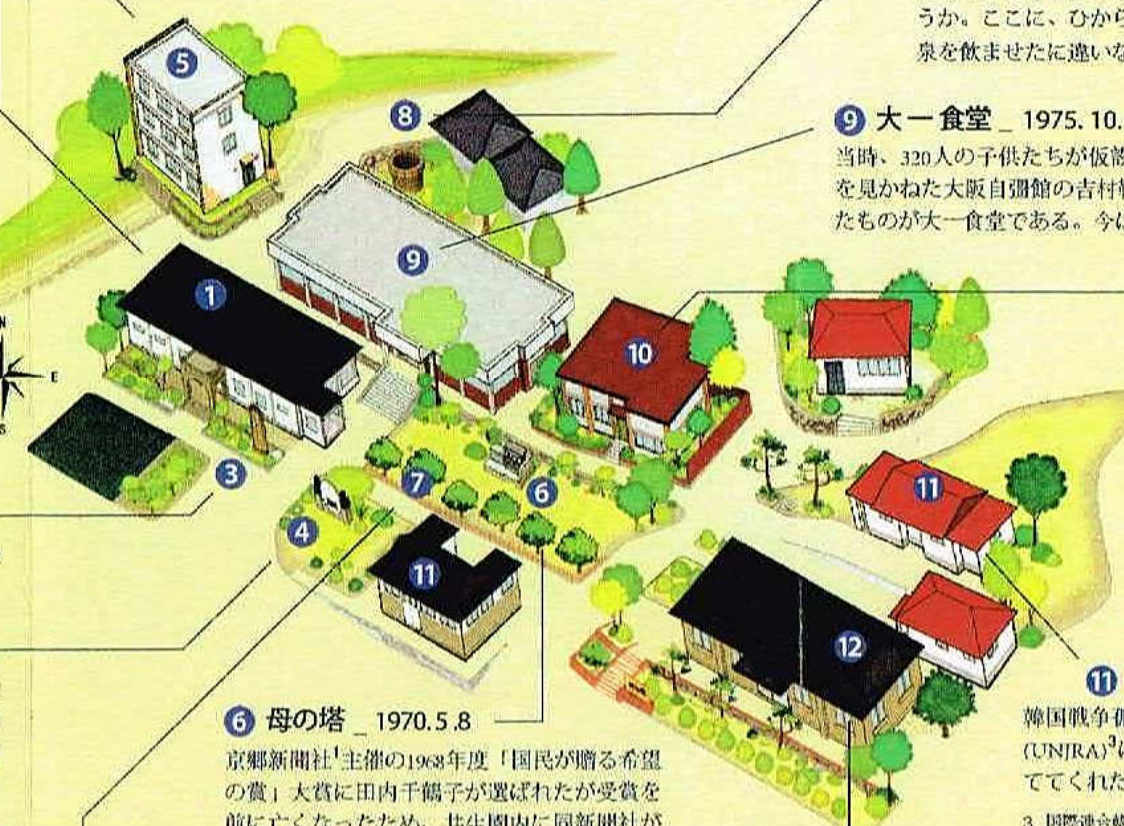
祖父母から三代続いた田内録(ユン・ロク)園長の活動はNHK「20世紀の映像」で放映され、これを見た小淵恵三首相が群馬県の梅の木を贈ってくださった。共生圏創立80周年には小淵千鶴子女史が共生圏を訪ねてくださった。

3 創立20周年記念碑 _ 1949. 6. 15

大盤洞(デバンドン)住民が心あわせて建てたものである。「共生圏創立20周年記念碑—大盤洞洞民一同 1949.6.15」と刻まれている

4 愛の家族の記念碑 _ 2003. 10. 15

戻ってきた卒園生たちをあたたかく迎える愛の家族の記念碑は全太洪水浦市長をはじめ多くの市民の参加によりできたものである。二人の胸像と7人の子どものレリーフがあり、「愛の泉」の碑文は日本語、韓国語、英語で記されている。



国内事業

児童福祉事業

木浦共生園(児童養育施設)

親を失い家族崩壊などで危機に面した子どもたちを保護し支援します。

共生地域児童センター

放課後学習と児童福祉サービスを提供し健全育成を支援します。

シンファン保育園(乳児保育施設)

地域社会の乳児たちを夢と愛でいっくしみ養育支援します。

障害者福祉事業

共生再活園(知的障害者生活施設)

障害者たちの能力開発及び再生を支援する知的障害者施設です。

木浦障害者療養院(重症障害者養護施設)

支援なしには日常生活が困難な重度精神遅滞障害者たちを保護して、療養する施設です。

イエソン自立園(障害者職業再活施設)

肢体不自由者の特性と適性、希望、経験などを考慮し職業リハビリを実施しています。

ムアン自立園(障害者職業再活施設)

障害者の自立生活を支援する職業再活教育を実施し働く楽しさと経済的自立度を高めます。

人材育成事業

ソウル市立 漢南職業専門学校

人間性と専門技術を兼備した産業人材を育成して経済・社会活動の参加を高めます。

地域開発事業

江南地域自活センター

勤労能力のある低所得者層への技術教育及び自活支援サービスを提供しています。

福祉人材養成事業

国際福祉研修支援, 国際社会福祉セミナー

「日韓こころの交流シンポジウム」

福祉文化事業

福祉図書、教養等でエッセー集などの良書出版

故尹鶴子女史の生涯を描く映画「愛の黙示録」を製作。

DVD販売とうによる普及活動。

協力事業

済州市立希望園・希望分かち合いセンター(救護施設)

決まった住居のない人たちに安息の場と相談の機会を提供し社会復帰を支援します。

済州精神療養院(精神療養施設)

精神障害者に再活治療プログラムを提供し、社会や家庭復帰を支援します。

舎堂総合社会福祉館

生活保護や中低所得家庭の自立支援をします。

海外協力事業

“愛がある限り人間の明日は大丈夫”

韓国の孤児のために一生を捧げた田内千鶴子の生涯に学び、その福祉遺業を継承する。「隣人づくり」「人づくり」「故郷づくり」「文化づくり」を柱としたこころの家族運動を展開し、その成果のひとつとして在日コリアンと日本人の高齢者が共に暮らす老人ホーム「故郷の家」が日本で誕生しました。

1989年 故郷の家(堺市)

1994年 故郷の家介護サポートセンター・大阪

2001年 故郷の家・神戸
真野デイサービスセンター(指定管理者)

2009年 故郷の家・京都

2015年9月開設予定 故郷の家・東京



(日本) 社会福祉法人

こころの家族

〒590-0142

大阪府堺市南区檜尾3360-12

特別養護老人ホーム「故郷の家」内

TEL_072-271-0881 FAX_072-271-5474

E-mail_kazoku@kokorono.or.jp

<http://www.kokorono.or.jp>